

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25285233

研究課題名(和文) トランスマイグ란トの時代におけるブラジル人学校の社会化機能の研究

研究課題名(英文) The Socialising Roll of Brazillian Schools in the Age of Transmigrants

研究代表者

林 寄 和彦 (HAYASHIZAKI, Kazuhiko)

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10410531

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日系ブラジル人のトランスマイグ란トとしての側面に着目しながら、日本で教育を受けた経験のあるブラジル人青年のライフストーリーを収集し、進路状況、文化的志向やアイデンティティ、被教育経験をあきらかにしようとした。そして、日本におけるブラジル人学校や、そのほかの日本の学校の機能、支援の在り方等を考察している。その結果、おおくの若者が、日本での被教育経験や生活経験をうまく活用しながら、ブラジルにおいて再チャレンジをはたす姿が見出された。また文化的な貢献として刷新された日本の文化や習慣が旧来の日系社会文化と混成される様子も観察された。

研究成果の概要(英文)：The researchers analysed and revealed the employment situation, cultural orientations and identities, and the educational experiences of Japanese Brazilian youth who have attended schools in Japan and then returned to Brazil, focusing especially on the specific characteristics of transmigrants. The research also considered the impact of their schooling in Japan, either at schools for Brazilians or Japanese public schools. It was found that not a few Brazilian youth utilised their experience of education and living in Japan in various ways, and generally had better success in Japan-related businesses in Brazil. The research also found hybrid mixtures of renewed Japanese culture and identities combined with older Japanese culture and identities still preserved from the early generations of Japanese migrants to Brazil.

研究分野：教育社会学

キーワード：トランスマイグ란ト 往還移民 日系ブラジル人 デカセギ ニューカマー 外国人教育 移住労働者 外国人学校

1. 研究開始当初の背景

2008年にはじまる経済危機によって、日本に在住していたおおくの日系ブラジル人が、ブラジルへと帰国、第三国へと移住した。ブラジル人国籍の外国人登録者数は最大の31万人から当時の2011年には23万人へと減少していた(2015年では17万人)。この日系ブラジル人人口の大移動は、これまでの定住化する従来の移民・外国人としてブラジル人たちをとらえることの限界をしめしていた。

さらにこの状況におうじて、二国間において教育をうける子どもたちの存在がうきあがりつつあった。また、経営に大打撃を受けたブラジル人学校の役割や機能も再評価されたと同時に、外国人をうけいれてきた公立や私立の学校もその教育支援のあり方のふりかえりが必要となった。

学術的にはこうした多国間にいきる人びとを、「入移民」「出移民」と区別して、「往還移民(トランスマイグラント)」とよぶことができる。しかし、日本ではこうした多国間でいきる人びとの存在や特質をおきざりにしたまま、「定住化」を促進する政策のありかたはかたられてきた。また研究対象としてもとりあげられることがほとんどなかった。

2. 研究の目的

トランスマイグラントとしてのブラジル人に着目し、かれらにとってのブラジル人学校及び日本の学校、それ以外の支援の意味をよりあきらかにすることを目的に、主に日本でなんらかの被教育経験をもち、ブラジルに帰国した青年たちの進路実態、文化的志向・アイデンティティ、被教育・被支援経験の総合的な解明をおこなうこと。

3. 研究の方法

ブラジル人学校にアプローチをするとともに、主にブラジルに帰国した青年たちを対象にインタビュー調査をおこない、収集されたデータをもとに、進路実態、文化的志向・アイデンティティ、被教育・被支援経験を分析した。

ブラジルへは2013年度は2人、2014年度3人、2015年度2人の研究者が渡航し調査をおこなった。調査地もサンパウロ、ジュンジアイ、スザノ、アサイ、ロンドリーナ、リベイラン・プレス、レシフェなど多様な地域を網羅することができた。

のべ50人をこえる該当する青年に、インタビュー調査をおこなった。また日本では10名弱のインタビュー調査をおこなった。

4. 研究成果

(1) ブラジル人学校のフォロー調査の成果

ブラジル人学校へのフォローアップは前年度までの科研プロジェクトにひきつづいておこなわれた。ブラジル人学校といってもその形態は多様であり、教育方針・哲学、生

徒数、財政状況、カリキュラム、進路状況などにそれぞれの特徴がみいだされた。それと同時にブラジル人学校にたいする共通したニーズや、日本側からの支援の方策等があらかとなった。

(2) 青年インタビューの成果

青年たちのインタビューからはおおまかに以下のことがみいだされた。

- ・都市近郊では、とくに日本語もポルトガル語もできる青年たちは、日系企業や日本にかかわる業務をもつ企業・団体ではたらく人びとがすくなくない。
- ・日本関連企業ではたらく青年たちは、そこで日葡の中間的な役割をにない、それにより日葡両方の言語の能力をたかめる者もいる。
- ・大学が夜間に開講されるため、また残業をせずすむ就労形態の者もおおく、就労しながら、または子そだてをしながら、大学でまなびつづける青年もめだった。
- ・日本でみにつけた文化・習慣・スキルを積極的に活用しながら、人間関係、ネットワークの構築や、就労、ビジネスにむすびつけている人びともいる。
- ・地方では就労に困難がおおい。また都市でも地方でも、2014年にはじまる不況の影響がみられる。
- ・計画的なデカセギによって帰国した家庭では、ブラジルでは比較的裕福な暮らしをしており、それらの家庭の子どもは高学歴者がすくなくない。
- ・総体的にみて帰国した青年たちはブラジルにおいて比較的成功している者がおおい。さらには日本社会では進学等で失敗しながらも、敗者復活をなしとげている者もすくなくない。またとりわけて成功してなくとも、劣等感をいだかくてすむというブラジルの文化的特質もある。
- ・日本の大衆文化の継続的な輸入が、生活経験およびインターネットをつうじてされており、日系社会の旧来の古典的文化との融合・葛藤・線引・刷新がおこなわれている。
- ・日本語ができる親は子どもにも日本語とポルトガル語を習得させようとし、ブラジルの日本文化保持にも貢献している。
- ・学校・企業のそのどちらの環境についても、日本よりブラジルのほうが快適にすごせるとかんがえる者がおおい。

(3) 今後のみとおし

わたしたちは、若者のかたりから、就労文化、人間関係、ブラジル人氣質、夜間大学や再教育のための制度の充実、人権や労働条件への配慮等々のため、ブラジルでは日本よりも再チャレンジしやすい環境があるのではないかという仮説をたてている。そしてつぎの科研プロジェクトへと、その仮説の検証はひきつづいてる。この新調査をみとおしなが

ら、これまでの調査の全体をまとめ、社会化することが当面の目標である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

児島明、中島葉子, 2015, 「トランスマイグランドの時代におけるブラジル人青年の教育経験 学校教育と学校外教育の両面から」『地域学論集(鳥取大学地域学部紀要)』第12巻第2号, 75-103頁

山ノ内裕子, 2015, 「在日ブラジル人家族の進路選択と教育戦略 日本で高等教育を終了した日系三世青年とその母親のライフヒストリーから」『関西大学人権問題研究室紀要』第69号, 1-24頁

ハヤシザキカズヒコ, 2015, 「移民の子どもの教育の現状と課題」『日本労働研究雑誌』第662号, 54-62頁

山ノ内裕子, 2014, 「トランスナショナルな『居場所』における文化とアイデンティティ 日系ブラジル人の事例から」『異文化間教育』40号, 34-52頁

山本晃輔, 2014, 「帰国した日系ブラジル人の子どもの進路選択 移動の物語に注目して」『教育社会学研究』第94集, 281-301頁

[学会発表](計5件)

山ノ内裕子、山本晃輔、ハヤシザキカズヒコ、児島明、中島葉子, 2015年9月9日, 「トランスマイグランドの時代におけるブラジル人青年の文化的志向」日本教育社会学会第67回大会、駒沢大学(東京都世田谷区)、口頭発表

ハヤシザキカズヒコ、児島明、山ノ内裕子、山本晃輔、中島葉子, 2015年9月9日, 「トランスマイグランドの時代におけるブラジル人青年の職業達成」日本教育社会学会第67回大会、駒沢大学(東京都世田谷区)、口頭発表

児島明、中島葉子、ハヤシザキカズヒコ、山ノ内裕子、山本晃輔, 2015年9月9日, 「トランスマイグランドの時代におけるブラジル人青年の教育経験」日本教育社会学会第67回大会、駒沢大学(東京都世田谷区)、口頭発表

山ノ内裕子, 2014年9月13日, 「ブラジルへ帰国した日系人青年たちのライフストーリー」日本教育社会学会第66回大会、松

山大学(愛媛県松山市)、口頭発表

山ノ内裕子, 2014年6月7日, 「在日ブラジル人家族の進路選択と教育戦略 -日本で高等教育を終了した日系三世青年とその母親のライフヒストリーから」異文化間教育学会第35回大会、同志社女子大学(京都府京都市)、口頭発表

[図書](計2件)

志水宏吉、中島智子、鍛冶致編, 2014, 『日本の外国人学校 トランスナショナルなアイデンティティをめぐる教育政策の課題』明石書店, 全408頁(41-44頁、219-294頁)

志水宏吉、山本ベバリーアン、鍛冶致、ハヤシザキカズヒコ, 2013, 『「往還する人々」の教育戦略』明石書店, 全352頁(206-267頁、300-312頁)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 寄 和彦 (HAYASHIZAKI, Kazuhiko)
福岡教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 10410531

(2) 研究分担者

児島 明 (KOJIMA, Akira)
鳥取大学・地域学部・准教授
研究者番号: 90366956

山ノ内 裕子 (YAMANOUCHI, Yuko)
関西大学・文学部・教授
研究者番号: 00388414

中島 葉子 (NAKASHIMA, Yoko)
岐阜聖徳学園大学・教育学部・講師
研究者番号：30637872
(平成 26 年度より研究分担者)

山本 晃輔 (YAMAMOTO, Kosuke)
大阪大学・人間科学研究科・研究員
研究者番号：30710222